

長崎県における大腸がんについて

副島 幹男* 谷 彰子
 吉田 匡良 稲田 幸弘
 陶山 昭彦 池田 高良

葉山 さゆり 山川 さゆみ
 武田 靖之 早田 みどり

1. はじめに

昭和 59 年より長崎県がん登録事業が開始され現在に至っている。登録業務は県から委託され、放射線影響研究所が行っている。今回、全国的に大腸癌が増加傾向にある為、長崎県の大腸癌の実態について分析した。

2. 対象と方法

1985 年から 1998 年の 14 年間に長崎県がん登録に登録された大腸がん症例 15,913 例（男 9,153 例、女 6,760 例）について全がんに占める割合、年齢分布、罹患数・罹患率・死亡率の推移、早期がんの割合等について調べた。

3. 結果及び考察

1998 年の長崎県における部位別罹患数の割合は、男性では胃がん 19.2%、肺がん 16.7%に次いで結腸がん 12.3%、直腸がんが 5 番目で 7.7%、女性では、胃がん 14.9%、乳がん 13.1%に次いで結腸がん 12.1%、直腸がんは 6 番目で 6.7%であり、結腸、直腸を合わせた大腸がん

表 1. 部位別罹患数の割合（1998 年）

男性		女性	
胃	19.2%	胃	14.9%
気管～肺	16.7%	乳房	13.1%
結腸	12.3%	結腸	12.1%
肝臓	8.6%	気管～肺	8.7%
直腸～肛門	7.7%	子宮	7.9%
前立腺	6.3%	直腸～肛門	6.7%
膀胱	3.8%	胆嚢、胆管	5.2%
食道	3.4%	肝臓	5.0%
悪性リンパ腫	2.2%	膵臓	3.9%
膵臓	2.7%	悪性リンパ腫	3.6%

の割合は男女共最も多かった。

1985 年から 1998 年迄に罹患した人の年齢分布は、いずれのがんもピーク年齢は男性が 60 歳台、女性が 70 歳台で女性の年齢が高かった。

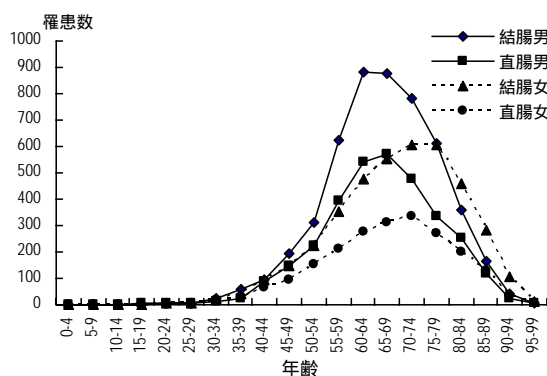


図 1. 年齢別罹患数（1985-1998 年）

壁深達度別の罹患数の推移では m,ss の増加が著しかった。98 年では m 22.1%、sm 7.8%、pm 6.8%、ss 27.0%、se 13.8%、adv.NOS 9.8%、UNK 12.8%だった。

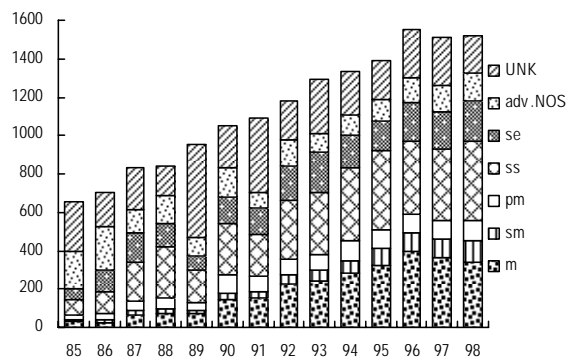


図 2. 壁深達度別罹患数の年次推移

* 放射線影響研究所疫学部 腫瘍組織登録室（長崎県がん登録室）

〒850-0013 長崎市中川 1-8-6

年齢別の罹患数の年次推移では60歳以降の増加が著しかった。

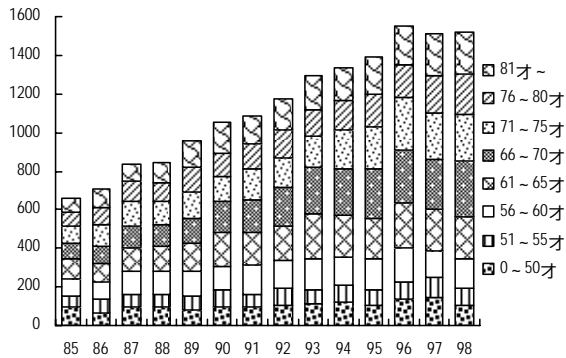


図3. 年齢別罹患数の年次推移

発見動機別に見た早期癌の割合は、検診発見例、人間ドック、入院時ルーチン等の偶然発見例で早期癌が高く、自覚症状ありのケースでは進行癌が高かった。85-89年と94-98年の比較では検診発見における早期癌の増加が著しかった。

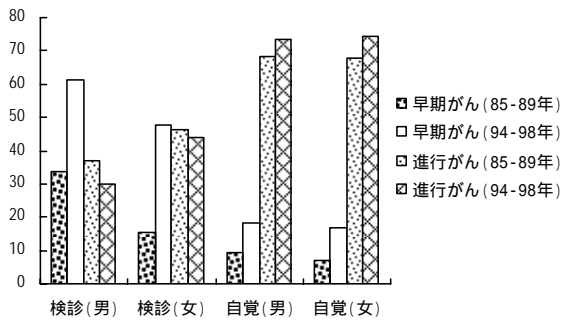


図4. 発見動機別早期がん，進行がんの割合

罹患率と死亡率について日本人人口で年齢を調整し推移を比較すると、男性の罹患率の増加が顕著に見られる。それに対して死亡率は男女ともほぼ横這いであった。男性では罹患率と死亡率の乖離現象がみられた。

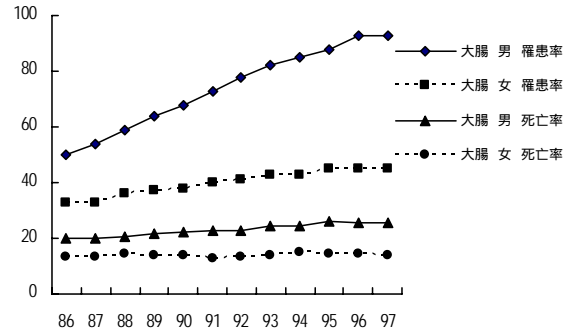


図5. 罹患率と死亡率の比較